

特集①子どもへの自転車教育

# 子どもへの教育を通じて保護者も学ぶ



子どもにとって自転車は最も身近な交通手段といえる。そして、子どもへの自転車教育は交通社会の一員としての自覚を促す上でも重要だ。今回は各地域で行われている子どもへの自転車教育の現場を紹介しながら、事故防止のために子ども、また保護者に伝えるべきことは何かを探る。



Hondaの交通安全情報紙  
**The Safety Japan**  
Since 1971

6\*7  
2009  
JUNE・JULY

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内  
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1  
TEL 03(5412)1736  
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/  
●編集人：千葉英雄  
※年間購読をご希望の方は、下記までお問い合わせください。  
（株）アストクリエティブ 安全運転普及本部係  
TEL03(3405)1191 E-mail sj-mail@spirit.honda.co.jp

SJホームページは

CONTENTS

- 特集①子どもへの自転車教育  
子どもへの教育を通じて保護者も学ぶ……………①
- 特集②シミュレーターによる自転車教育  
中学生・高校生への自転車教育に活用が期待される  
Honda自転車シミュレーター……………③
- 危険予測トレーニング(KYT) / 料金所で危険……………④
- The教材 / マナブくんの「みんなでまなぼうこうつうあんぜん」……………④
- SJクイズ……………④
- DOCUMENT EYE (29)
- 一般道路を走行中のクルマの車間距離(車間時間)を観察する……………⑤
- 地域のチカラ / 埼玉県の交通安全活動……………⑥
- 現場訪問 / NEXCO中日本(中日本高速道路(株))……………⑦
- TOPICS ① / 第9回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会……………⑦
- TOPICS ② / 安全運転教育用ソフト「Hondaセーフティナビ」……………⑦
- NEWS REVIEW……………⑦
- 教育最前線 / 栃木県立真岡工業高等学校・原付安全運転講習……………⑧
- 読者の声……………⑧



交差点を左折する場合の悪い例(上)として車道側にふくらんで曲がる。正しい例(下)として道路の左側端に沿って曲がる

5月11日午前9時30分、尾久自動車学校(東京都小金井市)に自転車を押し歩く小学生が続々と集まってくる。尾久自動車学校では年に1度、同校の休校日を利用して小金井市立東小学校的児童を招いて自転車教室を開催している。今回参加したのは東小学校的の4年生79名と引率の先生、見学する保護者だ。

尾久自動車学校・副管理者検定部長の小菅三男さんが「自転車は便利な乗り物ですが、正しく乗らないと危険です。今日は、みなさんに自転車の正しい乗り方と、道路でこんなことをすると危ないということを勉強してもらいます」と主旨を説明して、教室は始まった。

2時間のプログラムは、自動車の特性と自転車の正しい乗り方を教習指導員が実際に乗って見せることで児童に理解させる「実演」と、児童が自分の自転車に乗り、教習所のコースを使って法規走行や課題走行を行う「実走訓練」で構成されている。

実演は、まず並走時の危険について。2名の教習指導員が自転車で並走し、車道寄りの1台がセンターラインの方へ膨らんでしまった時に後方から来たクルマと接触しそうな場面を再現。並走は危険であることを伝える。次に交差点の通行方法。教習指導員がまず悪い例を見せ、その後、正しい例を見せる(写真参照)。また、教習指導員が自転車を運転し、左折するクルマに巻き込まれる事故も再現した。

この他、クルマとバイクの速度の目視観察も行われた。最初に40km/hで

走るクルマが児童の目の前を通過。教習指導員が「何km/hくらいのスピードだったか」と質問すると、ほとんどの児童は40〜50km/hと答える。次にバイクが同じ速度で通過。同じ質問をすると、今度は20〜30km/hという回答が多い。同じ速度で走っていても、クルマと比べて小さいバイクは遅く感じてしまうことを児童に実感してもらおう。

## 体験を通じて交通ルールを学ぶ

実走訓練は、法規走行と課題走行。法規走行は、車道の左側端を1列で走行し、信号機のある交差点で右折・左折する。右折では二段階右折を練習。「止まれ」の標識がある交差点、見通しの悪い交差点での一時停止・左右確認を行う。交差点には教習指導員が立って、「必ず止まって、左右からクルマが来ていないかよく見ましょう」と声をかける。児童は指定されたコースを周回し、交通ルールに則った運転を身につけた。

課題走行では二輪の教習に使用する一本橋やパイロンスラロームなどで、バランス感覚を養う。児童は最初のうち、うまく走れなかったが、真剣に練習し上達していった。

小菅さんによると、法規走行だけでは単調になってしまいうので、課題走行も取り入れているそうだ。東小学校的では、この自転車教室を授業の1つとして



左折巻き込み事故の再現



「止まれ」の標識のある交差点で、悪い例(上)として一時停止をせずに通過し、右側から接近するクルマと接触しそうな場面を見せる。その後、停止線の手前で一時停止してから、左右の安全を確認して通過するという正しい例(下)を見せる

所のコースを使って練習できるため、公道に近い環境の中で交通ルールを学ぶことができることを挙げる。「交通安全の専門家である教習指導員の方々から、自転車の安全運転について正しい知識を教えていただけるのは、ありがたいことです。児童が交通社会の中で、自分の命を守るための危険回避能力を養うことができます」と評価する。

見学していた保護者は、「自転車の交通ルールを基本から学べるだけでなく、子ども一人ひとりの運転を見て、適切なアドバイスがもらえるのは貴重な機会です。実演の部分は事故再現などもあり、子どもの印象に残りやすい内容で、大人が見ても参考になります」と話す。

東小学校的の児童を対象にした自転車教室は、25年以上前から続けている尾久自動車学校の地域貢献活動の1つである。指導にあたった同校の小菅三男さんは、「児童がルールを守っている場合や、ドライバーが見落とされることもあります。事故の再現を見せることにより、交通事故にあわないためにはどうしたらいいのか指導しています。見学もできますから、より多くの

同校の中川裕子校長は、この自転車教室の特徴として、児童が自分の自転車を運転し、教習



法規走行や課題走行に取り組む東小の児童

保護者の方々に見ていただきたいと思っています。児童本人への教育も重要ですが、保護者の方が正しい知識を学んでいただければ、家庭でも適切なアドバイスができるでしょう」と話す。

## 親子で楽しむ 交通安全クイズ

地域に住む親子を対象とした自転車安全教室を春と秋の年2回、10年以上にわたり開催しているのは藤井寺自動車教習所（大阪府藤井寺市）だ。4月29日午前9時30分、自転車安全教室に幼児から小学校高学年までの子どもと、その親や家族、60名近くが自分の自転車に乗って集まって来る。

藤井寺自動車教習所管理者の西野有次さんはホームページで告知したり、周辺の住宅にチラシを配り、参加を呼びかけているという。「当校では、教習生はもちろん、卒業生や地域の方々に交通安全を伝えていくことが大切と考えています。今日は、ここで実際に体験したことを日頃の交通安全や危険予測に役立てていただきたいと思っています」。この日の安全教室は、教習コースを使って実際の道路で見かける交通状況を再現し、どんな場面でもどんなクルマが危険なのかを理解し、交通事故防止につながる交通安全クイズなどを実施する。

指導を担当するのは同校教習指導員2名。参加者は教室に集合し、教習指導員が

自転車の点検方法と自転車に乗る時の注意点について話す。自転車を目の前で解体し、ブレーキやタイヤ、チェーンなど点検が必要な部品は大きなスクリーンに映し出して説明するので、子どもにもわかりやすい。「自転車が一番大切なのはブレーキ。スピードを出せば出すほど止まるのが難しくなります。スピードを出し過ぎないようにしましょう」と教習指導員が子どもたちに向けて説明。続けて保護者には、「ブレーキは大切なので、ブレーキがちゃんと効くかどうか、点検してあげてください」。

「座席の高さは、お子様の両足が地面に着くように高さを調整してあげてください。サイズの合わない自転車だと事故につながりやすくなります」とアドバイスして点検の説明が終わる。

次は教習所のコース全体を使つての交通安全クイズ。まずコースを歩いて1周しながら10問のクイズを出題する。次に、もう1周してクイズの解答を伝える。自転車道路を通行したり、歩行する際の注意点がクイズの題材になっている。途中で教習指導員が通行時の注意などもアドバイスする。1問目は工事現場の近くを通行する際の注意点からスタート。「工事現場では、危険がいりいりなところにかくれていきます。全体をよく見て安全を確認してから通りますよ」と教習指導員が解説する。2問目はクルマのハザードランプの意味。

3問目の場所では、止まっているクルマ



実際にバックランプが点灯しているクルマを見て、合図の意味を伝える

の後ろのバックランプがついている。問題は「クルマの後ろの透明のランプがついています。この合図の意味は何でしょう?」「この合図が見えたら、クルマがバックしてくるので、気をつけてください」。

この後、信号の意味、自転車の通行方法、駐車車両の脇の通行、自転車がパンクしてしまった時の対処などが出題された。コースの最後は交差点。交差点を曲がるクルマと、並走する自転車の巻き込み事故を教習指導員が実車で再現。クルマからは自転車が見えていない可能性があることなどを説明し、交差点で曲がるクルマに近づきすぎると自転車巻き込まれてしまう危険性があることを伝えた。

この後、全員で昼食をとって終了。家族で参加した坂本光一さんは「教習所のコースで実際の交通場面を想定したクルマなどを使ったクイズ形式だったので、実践的で子どもにもわかりやすくて良かったと思います。これから子どもが大きくなって、自転車に乗って一人で行けることも多くなるので、近くの教習所でこうした教室を開催していただくことはすばらしいことです。私たち親も普段、運転する際に注意しなければいけないと改めて思いました」。親にとっても学ぶことの多い自転車安全教室だったようだ。



藤井寺自動車教習所の自転車安全教室に参加した坂本光一さん一家

## 保護者を通じた 幼児への自転車教育

5月21日、三重県鈴鹿市立石薬師幼稚園では、園児14名とその保護者14名が参加して交通安全教室が開かれた。指導するのは鈴鹿モビリティ研究会の喜井美雄事務局長、相浦和則インストラクター、鈴鹿市交通教育指導員、石薬師幼稚園の林千尋園長は、「小さい頃からの交通安全教育は非常に重要です。また、家庭での指導も必要で

すから、保護者の方々にもご参加いただいています」と、交通安全教室を親子で学ぶ場として考えている。

交通安全教室は、「親子で一緒に学ぶ時間」「親子別に学ぶ時間」「親子で体験学習の時間」の3つのパートで構成されている。

最初は腹話術を使った「親子と一緒に学ぶ時間」。交通安全指導員が操る人形が、「飛び出ししないための約束」などを園児に伝える。

次は「親子別に学ぶ時間」。園児は交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」を使って、道路の歩き方を学ぶ。一方、保護者は別室で相浦インストラクターによる交通安全のプレゼンテーションを受ける。初めに、子どもの視野・視力や、幼児・児童の交通事故状況を説明した後、子どもへの交通安全の教え方に入る。

「信号の意味や交通ルールを教えることは重要ですが、ルールを知っているだけでは、事故を防ぐための行動にはつながりません。知識を行動につなげることが大切です。必ず体験的なことを行って、自分で考える機会を与えてあげてください。自転車の乗り方指導といえば、まず自転車のルールを教える。次に、必ず交差点などで止まって見ることを体験的に教えることです。また、子どもに対して『急いで』とか『早くしなさい』ということは、余計なプレッシャーを与えることになるので、避けるようにしましょう」。

続いて自転車の選び方と調整方法、ペダルへの足の乗せ方、自転車の乗り方などを具体的に説明する。最後は自転車の交通ルールについて。

「6歳未満の幼児の自転車は、道交法では歩行者扱いですから、歩道のない道路では右側通行で、保護者の付添も必要です。小学生になったら自転車は左側通行となります」と解説する。「小学生になる直前に、左側から乗車し、後ろを確かめてから出発する。道路の左側を通行し、両手でブレーキをかけて止まる。そして、自転車から降りてよく見て聞いて、横断歩道を渡るという練習をするようにしよう」。

林園長は、「自転車に乗り始める園児は



石薬師幼稚園の交通安全教室では、保護者が子どもに対する自転車の指導方法などを学んだ。その間、園児は「あやとりい ひよこ編」を使った交通安全教育を受ける

少なくありません。子どもにどのように教えられるのか不安な保護者もいらっしゃるから、自転車の安全な乗り方についても学んでいただいています」と、そのねらいを話す。

最後に、再び親子が一緒になって「親子で体験学習の時間」。幼稚園の敷地を出て実際の道路を歩いて、止まる・見るなどの練習を親子で繰り返して練習した。そして、全員が幼稚園まで戻り、交通安全教室は終了。

鈴鹿モビリティ研究会の喜井事務局長は保護者が参加する交通安全教室では、子どもの交通行動の特性や、基本的な交通ルール、自転車の指導方法について話しているという。「すごく大切なことでも、意外と大人も知らなかったり、間違った知識を覚えて、そのまま子どもに伝えたり、悪い手本を示している場合もあります。知らないことを再認識し、知識を身につけて、子どもたちを正しく導いてもらう必要があります」。

子どもへの交通安全教育では、子どもの手本となり、家庭で教育にあたる親が、ともに参加することも重要なことだといえる。

※1 鈴鹿モビリティ研究会（本年4月からは本田技研工業(株)安全運転普及本部鈴鹿普及ブロック）＝三重県鈴鹿市とHondaが将来のより良い交通環境づくりをともに進めることを目的として1993年に設立し、市内の事故分析による道路環境の改善や交通安全プログラムの開発、教育の実施などを行っている。  
※2 あやとりい＝鈴鹿モビリティ研究会が開発した交通安全教育プログラム。幼児向けの「あやとりい ひよこ編」、小学3・4年生向けの「あやとりい」、小学生向けの「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者向け「あやとりい 長寿編」がある。あやとりいは「あぜんを やさしく ときあかし りかいして いただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。  
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatori/>

## 特集② シミュレーターによる自転車教育

# 中学生・高校生への自転車教育に活用が期待される Honda 自転車シミュレーター

中学生や高校生にあたる13～18歳は自転車乗用中に交通事故に遭いやすい年齢層である。Hondaでは自転車利用者に交通ルールとマナーをわかりやすく伝え、さらに危険予測能力を高めることを目的に体験型教育機器「Honda自転車シミュレーター(以下、シミュレーター)」を開発中である。開発段階のシミュレーターを使い、中学校や高校の教育現場などでも検証を重ね、シミュレーターを活用した効果的な教育方法の研究を進めている。



飯野高校での交通安全教室

### 自転車の交通ルールを再確認してもらう

鈴鹿市と鈴鹿モビリティ研究会は、シミュレーターを活用した交通安全教室を鈴鹿市内の中学校と高校で行っている。「市内の自転車事故ゼロを目標に啓発活動を積極的に行っています」と、鈴鹿市生活安全部防災安全課の加藤裕之さんはいう。

3月16日、三重県立飯野高等学校で1・2年生を対象に交通安全教室が開催された。同校の津荷政裕教諭は「昨年、改正道路交通法が施行されたことに伴い、生徒たちに自転車の交通ルールを再確認してもらおうことを目的に交通安全教室を実施することにしました」と話す。

指導を担当する鈴鹿モビリティ研究会の西條昌宏インストラクターがシミュレーターを使う前に、自転車の安全運転について説明する。

まず、自転車の通行位置の確認。「自転車は車両扱いですから、クルマやバイクと同じように左側通行です。自転



シミュレーターの再生機能を使って、代表者の運転を振り返り、インストラクターがアドバイス



白子中学校での交通安全教室

車通行可の標識がある場合は、歩道を通行することができません。ただし、歩道は歩行者が優先という意識を持って、速度は控えめにしましょう。次に、自転車事故は信号機のない交差点での出会い頭事故が最も多く発生していることを伝える。「原因の1つとして、『止まれ』の標識のある場所で一時停止をしていないことが挙げられます。止まらなければならないので、必ず右、左、右を確認してください」。

そして生徒3名、先生1名が代表してシミュレーターを体験。代表者の運転の状況は、大型のスクリーンに映し出される。シミュレーター上で通学路や市街地、商店街など、さまざまな交通場面を走行する。走行が終わると、その過程をさまざまな視点で再生。事故にあいそうな場面では、どのような危険予測が必要だったか生徒たちに考えてもらう。

「体験した生徒は『自転車を運転している感じだった』といっていましたから、実際に路上を走行して指導するのに近い教育効果があると感じました」

### 普段の自分の運転を客観的に振り返る

と津荷教諭はいう。「シミュレーターを運転している画面を大型スクリーンに映し出したので、後ろで見ている生徒たちにもわかりやすかったと思います。シミュレーターを体験できた生徒は2名でしたが、その生徒たちが危険な場面に遭う状況を見ることで、事故を防ぐためにはどうすればいいか気づくことができましたでしょう」。

4月15日には鈴鹿市立白子中学校が2・3年生を対象に交通安全教室を開催。シミュレーターは2年生向けに活用された。同校の高須英彰教諭は「シミュレーターに登場する交通場面は生徒たちにも身近なシーンになっているので、普段の運転に近い状況が再現できています」とシミュレーターを評価する。

シミュレーターを体験したのは生徒3名と先生1名。飯野高校と同じように、代表者の運転状況を大型のスクリーンに映し、振り返る。路地からクルマが飛び出してきて衝突しそうになる場面。「一時停止標識を守らない

## 埼玉県知事と中学生・高校生がHonda 自転車シミュレーターで交通ルールを学ぶ

春の全国交通安全運動初日の4月6日、埼玉県庁(さいたま市)にて「知事と学ぶ交通安全～力を合わせシミュレーターに挑戦～」が開催された。これは新学期を迎える中学生・高校生が知事とともにシミュレーターに挑戦して楽しく交通ルールを学ぶことにより、交通安全意識の醸成を図ることを目的としている。この日、上田清司知事と浦和実業学園中学校・高等学校(さいたま市)の生徒がシミュレーターを体験しながら、交通ルールを学んだ。

シミュレーターを体験した上田知事は、「普段やっていることで正しくないことも多い」と感想を述べ、交通ルールを守ることの大切さを呼びかけた。



シミュレーターを体験する上田知事と浦和実業学園中学校・高等学校の生徒



浦和実業学園中学校3年生の渡辺麻耶さんは、「自転車ではスピードの出し過ぎに、気をつけようと思いました。また、自転車が走るべき通行位置もよくわかりました」と、シミュレーターで学んだ交通ルールを実践していきたいと感想を語った。



自転車に乗る時の正しい運転姿勢についてインストラクターが説明

クルマもいますから、こちらが優先道路を走っていても交差点に近づく時は徐行するようにしましょう。危ないと感じたら、無理に通過しようとせず、必ず止まってください」と西條インストラクターがアドバイスする。

「こうした新たな教育機器を取り入れたことで生徒たちの関心も高まり、メリハリのついた交通安全教室になりました」と高須教諭は感想を語った。

「普段、自分が運転している様子は確認できませんが、シミュレーターには再生機能があるので、自分の運転を客観的に振り返ることができます。中学生・高校生には、自分自身または友人の運転を見てもらうことが安全運転を促す上で、効果的だと考えています」と西條インストラクターはいう。

危険予測トレーニング(KYT) — 危険感受性を育てる

第9回 料金所での危険

活用方法

- ① 少人数のグループをつくります。
- ② 「交通場面のイラスト」を見ながら、Q1、Q2について意見を出し合います。
- ③ その後、「解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すればいいか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJのホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

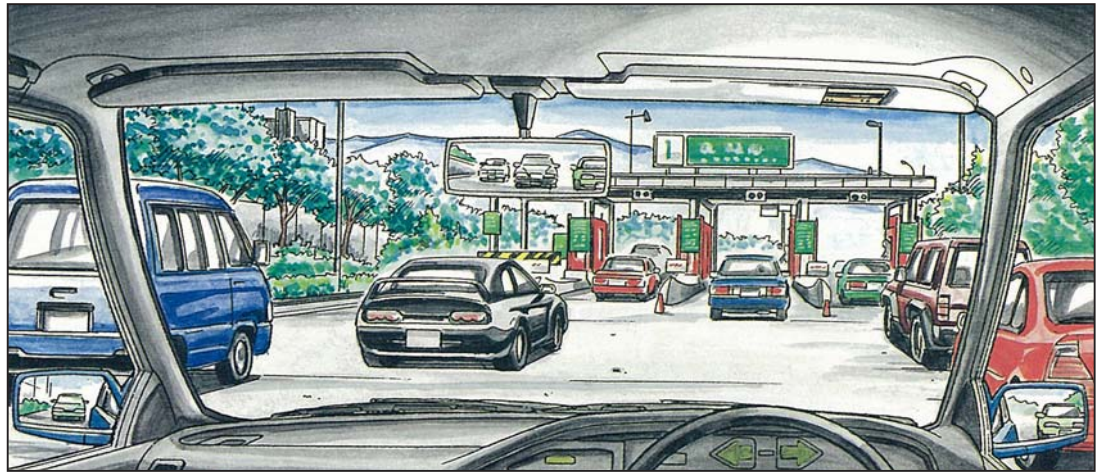
本田技研工業(株) 安全運転普及本部  
TEL: 03 (5412) 1736



今回のKYTの題材は、Hondaの危険予測トレーニング教材「交通状況を鋭く読む〜危険予測トレーニング(四輪車用)」から抜粋しています。詳細については以下ホームページ参照。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/training/>

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を育てるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、高速道路の料金所を通行する際の危険を考えてもらうためのKYTです。企業/団体などでのグループ教育の学習の中で活用してください。



あなたは高速道路の料金所に近づいてきました。これから通行料の支払いをします。どのようなことに注意して運転しますか？

Q1 どのような危険がありますか？

- ① 直進して正面のブースに入るつもりなので、とくに危険はない
- ② 通行券や財布に気をとられ脇見してしまう
- ③ 減速が不十分で前車に追突してしまう

Q2 どのような運転をしますか？

- ① 周囲のクルマの動きに注意し、スピードメーターで速度を確認してブースに接近する
- ② 脇見が生じやすいことを考慮し、車間距離を十分にとる
- ③ 周囲のクルマに注意を促すためクラクションを鳴らす

正解を1つ、または2つ選んでください

©本田技研工業(株)

SJクイズ ?

Q1 平成20年中の交通事故で最も多い事故類型は車両相互事故の「追突」ですが、その構成率は次のうちどれ？



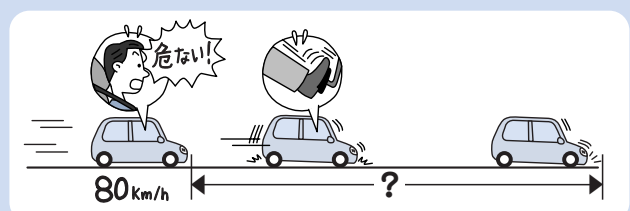
- ① 約25%
- ② 約30%
- ③ 約35%
- ④ 約40%

Q2 平成20年中の原付以上運転者(第1当事者※)による交通事故件数を法令違反別にみると、最も多い違反は安全不確認(構成率31.5%)ですが、次に多い違反はどれ？

- ① 脇見運転
- ② 漫然運転
- ③ 一時不停止
- ④ 信号無視

※第1当事者=交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者又は過失が同程度の場合は、被害が最も軽い者

Q3 乾いた舗装路面を80km/hで走行中のクルマが危険を認知して急ブレーキをかけた場合の停止距離(空走距離+制動距離)の目安は、次のうちどれ？



- ① 約44m
- ② 約58m
- ③ 約76m
- ④ 約93m

※「解答」は7面下。「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。  
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

The 教材

このコーナーでは、全国各地の自治体や警察、企業・団体などが制作した交通安全教育教材をご紹介します。



1.危険を見分ける能力を高める教材



2.我が家だけの交通安全教材を作ってみよう！

File.2 福岡県ホームページ内 マナップくんの「みんなでまなぼうこうつうあんぜん」

企画・制作：福岡県 新社会推進部 生活安全課

●ページの紹介

福岡県の交通安全シンボル「マナップくん」をメインキャラクターに、親子で楽しく交通安全について学べるページ。

危険を見分ける能力を向上させるクイズや、マナップくんのポップアップペーパークラフトなど、遊びながら学べるコンテンツが掲載されている。

●教材の特徴

福岡県新社会推進部生活安全課によると、マナップくんの「みんなでまなぼうこうつうあんぜん」の特徴は主に以下の2つの点であるという。

1. 危険を見分ける能力を高める教材を提供

このホームページから、危険を見分ける能力(危険認知能力)を高める方法とクイズがダウンロードできる。クイズは、どこが、どのように危険なのか、また、どうしたら危険を回避できるのかなどを、親子で楽し

く対話しながら取り組む内容となっている。

2. オリジナルの交通安全教材が作れる

交通安全教材を作成するためのイラストがホームページからダウンロード可能。また、「飛び出し注意」「こんなところで遊んでいいのかな?」をテーマとした交通安全教材の作成例が掲載されている。作成例を見ながら、近所の危険箇所の写真とイラストを組み合わせて、オリジナルの交通安全教材を作成することができる。

●ホームページのアクセス方法

福岡県庁ホームページ <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/> から、防災・防犯とくらし→交通安全→マナップくんの「みんなでまなぼうこうつうあんぜん」

混合交通を観察する  
**DOCUMENT EYE** series—231

一般道路を走行中のクルマの車間距離(車間時間)を観察する



ある日の午後、気になる実際の交通状況を観察しました。



車間時間が2秒未満のクルマ

Q1

1時間に観察したクルマの中で、前車との車間距離が詰まっていた※のは何%でしょうか?

※車間距離が詰まっていた＝本紙観察では前車との車間時間が2秒未満の状態

- 観察場所/東京都世田谷区新町二丁目付近(国道246号)
- 観察日/5月19日(火曜日)
- 天候/くもり
- 観察時間/15:00～16:00
- 観察者/4名

【観察の対象】

今回の観察では、先頭車両や単独走行のクルマ、混雑により低速走行となるクルマ等は計測から除外し観察した(※判断は観察者の見解による)。観察場所での交通の流れは50～60km/h程度だった。

【車間時間の計測方法について】

観察するクルマの前車が目標物を通過した時(図1)から、観察するクルマが同じ目標物に差し掛かるまで(図2)の時間を車間時間としてストップウォッチで計測した。

図1:計測開始

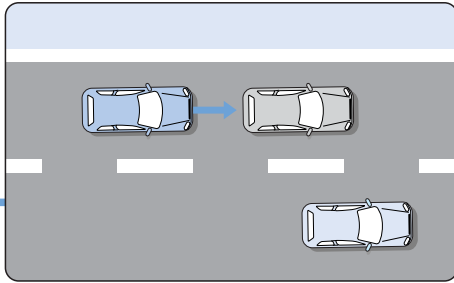


図2:計測終了



Q2

車間距離が短いクルマを目撃!!  
何が危険だと考えられますか?

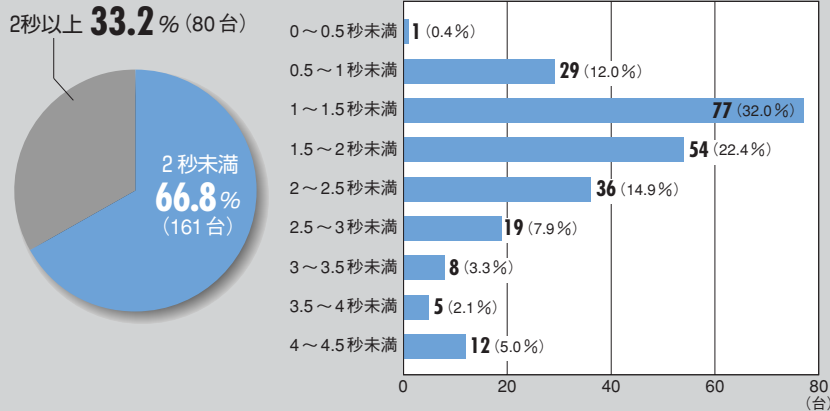


解答・解説

実際の観察から

Q1の解答: 約67%

●一般道路を走行中のクルマの車間時間(241台中)



- 1時間の観察で、車間時間を計測したクルマは241台(乗用車141台、軽自動車35台、タクシー8台、トラック28台、バス1台、原付8台、自動二輪20台)。その内、車間時間を2秒以上空けていたのは、80台(33.2%)だった。
- 車間時間1～1.5秒未満のクルマが最も多かった。
- 乗用車の後方を走行する二輪車は、車間時間が短い傾向があった。
- 前車との車間時間を2秒以上空けているクルマは、車種に関係なく見られたが、トラックやタクシーは比較的多かった。
- 上り勾配のある場所では、大型トラックと後続車の車間時間が短くなる傾向が見られた。

★今回の観察では約67%のクルマが車間時間2秒未満であった。前車と十分な車間距離をとらずに走行しているクルマは多いといえるだろう。車間距離をとることは追突事故の防止にもつながるので、ドライバーやライダーは車間距離を意識しながら運転してほしい。



上り坂では大型トラックに後続車が接近する

二輪車は前車との距離が近い傾向が見られた

Q2の解答:

前車の急ブレーキなどに対応しきれず、追突の危険がある。  
危険を回避できるよう、前車と最低2秒以上の車間を空けることが大切

【解説】

ドライバーが危険を認知してから、ブレーキを踏もうと判断し実際に踏み込むまでの時間(反応時間)は、個人差はあるが1秒程度はかかり、その間にもクルマは進む(空走距離)が、さらに、ブレーキがきき始めてから停止するまでの距離(制動距離)もかかる。「空走距離」と「制動距離」を合わせた「停止距離」を考えて、危険が発生した場合でも安全に停止できるよう前車との十分な車間距離が必要だ。一般道路では距離の把握が難しいため、車間時間2秒以上を意識することが大切である。



車間時間が2秒以上のタクシー

ここがポイント

●車間時間2秒以上を目安に走行する

埼玉県警察本部は「0102運動(車間距離2秒以上)」を提唱している。前車が通過した地点に自車が差しかかるまでに、ゆっくり「ゼロ・イチ・ゼロ・ニ」とカウントし、約2秒の車間を保つ。

●運転に集中する

脇見運転をすると反応時間がさらにかかり、空走距離が長くなるので、運転に集中する必要がある。また、疲れているときには運転を控える。

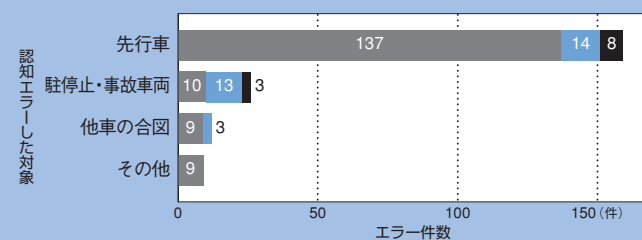
●速度を控える

速度が速くなると、停止距離も伸びる。道路状況に合わせて、安全に停止できる速度で運転することが大切。(乾いた舗装路面での停止距離の目安: 50km/hの場合32m、60km/hの場合44m)

ワンポイントDATA

追突したドライバーは、直前で前を見ていない例が多い

●事故直前の認知エラー(2003年(財)交通事故総合分析センター資料)



＜認知エラーの要因＞

- ～見なかった 14
  - ～見えなかった 8
  - その他
- 「～見なかった」内訳  
他のものに注意、脇見 89  
眠気、飲酒、急病 39  
ぼんやり 17  
思い込み 11  
考え事 7  
急ぎ 2

# 地域のチカラ

## ●埼玉県の交通安全活動



### 様々な手法を活用して展開される 高齢者の自転車事故を防ぐための取り組み

埼玉県は平地率が約61%と自転車を利用するのに適している環境もあり、自転車の保有台数が全国第3位(平成19年度・(社)自転車協会資料)という自転車王国である。近年、高齢者の交通事故死者を状態別にみると、自転車乗用中の割合が高くなっていることから、高齢者への自転車教育が大きな課題となっている。

#### 高齢者自転車運転免許証を 1万人以上に交付

埼玉県警察本部(以下、埼玉県警)では様々な高齢者の自転車事故防止対策に取り組んでいる。平成18年度から始まった高齢者自転車運転免許制度はその1つ。これは高齢者が対象で、自転車に関する講習を受講してもらった後、学科試験および実技試験を行い、一定の基準に達すると、高齢者自転車運転免許証が交付されるというもの。



4月に埼玉県警が主催した高齢者対象自転車交通安全教育研修会では、各警察署の交通安全教育担当者、交通ボランティア等が、Honda自転車シミュレーターを体験

**老人福祉センターを  
活用した交通安全啓発**  
埼玉県警では老人福祉センターにおける交通安全アドバイス制度も取り入れている。老人福祉セン

止場所であって左右の安全を確認できたかなど。今まで、平成17年度から平成20年度までに(平成17年度はモデル事業)全署で302回実施され、高齢者約1万2000人に免許証が交付された。



高齢者自転車運転免許証の実技試験の模様

自動車教習所などの施設を利用して講習会が開催されている。学科試験は10問(○×形式)の問題。実技試験は屋外で指定されたコースを走行し、評価項目に従って採点される。評価項目は発進時に後方の安全を確認して発進することができたか、一時停止

今、埼玉県警が自転車事故防止対策の有効な手段として期待しているのが、Honda自転車シミュレーター(以下、シミュレーター)だ。

#### シミュレーターを活用した 高齢者への自転車教育



県内116の老人福祉センターに2ヵ月に一度配布している高齢者交通安全ニュース

「アドバイザーをバックアップするため、事故事例など、最新の交通安全情報を提供する『高齢者交通安全ニュース』を2ヵ月に1度、各施設に配布しています」と大友さんは警察と施設の連携を図っているという。

埼玉県警では年1回、施設職員に対して研修会を開催し、交通安全指導のポイントを説明、アドバイザーとして養成している。現在、116施設で460人がアドバイザーとして活動し、施設を訪れる高齢者に対して、事故事例を交えた注意喚起や事故防止のアドバイス、交通安全ビデオの放映、反射材の配付等を行っている。

埼玉県警では年1回、施設職員に対して研修会を開催し、交通安全指導のポイントを説明、アドバイザーとして養成している。現在、116施設で460人がアドバイザーとして活動し、施設を訪れる高齢者に対して、事故事例を交えた注意喚起や事故防止のアドバイス、交通安全ビデオの放映、反射材の配付等を行っている。

ターとは地域の高齢者に対して無料または低額料金で各種の相談に応じたり、健康の増進、教養の向上やレクリエーションのための便宜などを提供している施設である。この老人福祉センターの施設職員を通じて、施設を訪れた高齢者に交通安全の啓発活動を行っているのだ。埼玉県警・交通企画課交通安全対策推進室長の大友信幸さんは「講習会などに参加していただけない高齢者もいらつしやいますから、高齢者が集まるところで情報を提供しよう」と運用を開始しました」と話す。平成20年だけで、のべ2万4494人の高齢者に啓発を行ったそうです。

小さなスペースでも簡単に設置できることを、大友さんはシミュレーターの利点として挙げる。「今までは自転車の実技講習という広い場所を確保する必要がありました。シミュレーターは持ち運びが容易ですから、高齢者の集まる場所へ持って行くことができます。これにより、今まで講習会に参加しただけでなかった高齢者にも体験を通じて自転車のルールや危険予測を学んでいただけます。また、シミュレーターによる教育は自転車の転倒によるケガの心配がないことも大友さんは利点として強調する。

#### 交通事故防止リーフレット「あじのひらき」



埼玉県警は、「あじの開き」をかたどったユニークな交通事故防止リーフレットを作成した。このリーフレットは、平成20年の県内高齢者の事故を分析した結果、  
(あ) 歩く人 (じ) 自転車に (の) 乗る人  
(ひ) 左から来る車と衝突  
(ら) ライトがつく頃に多発  
(き) 近所で油断  
の事故が多発していることから、それをわかりやすく伝えようと作成された。

県内の高齢者はもちろん、高齢者の行動特性を知ってもらうために、一般のドライバーにも配布している。

8月末までシミュレーターは埼玉県庁内にある県警PRセンターに展示されており、事前に予約をすれば、誰でもシミュレーターを体験できるようになっている。体験した高齢者からは、「今まで知らなかった自転車の交通ルールを学ぶことができた」という声が多く聞かれたという。シミュレーターの再生機能を使って、自分の運転を見てもらえると高齢者自身の納得性も高まるそうです。

埼玉県警では、高齢者自転車運転免許証の講習会で参加者に体験してもらおうほか、各種講習会やイベント等でシミュレーターを活用していく考えだ。

4月13日、県内各警察署の交通安全教育担当者、交通ボランティア等80人を集めて、高齢者対象自転車交通安全教育研修会が開催された。研修会では、シミュレーターの体験と、スケアード・ストリート教育技法を用いた指導方法が紹介された。

8月末までシミュレーターは埼玉県庁内にある県警PRセンターに展示されており、事前に予約をすれば、誰でもシミュレーターを体験できるようになっている。体験した高齢者からは、「今まで知らなかった自転車の交通ルールを学ぶことができた」という声が多く聞かれたという。シミュレーターの再生機能を使って、自分の運転を見てもらえると高齢者自身の納得性も高まるそうです。

「プロのスタントマンが自転車とクルマによる交通事故の再現シーンを見せたり、生徒に傘差し運転や二人乗りを体験してもらい、その危険性を知ってもらっています。この手法は中学生・高校生に効果がありました。こうしたものも高齢者向けに応用できないか現在、検討しているところですよ」と大友さんは語る。



スケアード・ストリート教育技法の1つであるプロのスタントマンによる事故の再現

埼玉県警では今後も高齢者に対して、より効果的な教育手法を考案していく考えだ。



現場訪問

●NEXCO中日本(中日本高速道路(株))

ETCレーンでの速度抑制対策の実施にあたり、ホンダドライビングシミュレーターを活用

NEXCO中日本(中日本高速道路(株))は、関東甲信・東海・北陸地区における高速道路等の建設及び管理・運営並びにサービスエリアなどの関連事業を行って...

「ETC利用者の増加とともに増えているのがETCレーンでの追突事故と...

Hondaドライビングシミュレーターによる検証のまよう



シミュレーター上のETCレーンの場面

かのトラブルにより、ETCレーン内で立ち往生してしまつた車両に対して、後続車が追突事故を引き起こしています...

同社は平成19年11月に、北陸道の料金所1カ所で開閉パー遅延対策の試行を開始し、その後徐々に北陸3県(富山・石川・福井)での試行箇所を拡大して...

こうして昨年12月に、中日本高速道路(株)は管内すべての料金所のETCレーンで、開閉パー遅延対策の導入を完了させた...

中日本高速道路(株)によるETCレーンでの速度抑制対策は現在、東日本高速道路(株)、西日本高速道路(株)にも拡大している。

TOPICS

6月1日、2日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重県鈴鹿市)で「第9回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」が開催された...



全国24都府県75教習所から179名の選手が参加

1 全国の教習指導員が日頃の技と指導力を競う

大型三輪部門の総合1位は、セパルライディングスクール橋本(神奈川県)の中脇仁哉さん。「昨年は総合3位だったので、自分が苦手とする技術をレベルアップさせ、どの種目でもまんべんなく良い成績を残せるよう努力しました」と中脇さん。

四輪部門「コーススラローム」



会場の一隅では、Hondaセーフティナビを使った「エコドライブチャレンジコンテスト」が開かれ、多くの選手や観客がエコドライブ度を競った



普通二輪部門「コーススラローム」



大型二輪部門「一本橋」

2 「環境」と「安全」にやさしい運転が楽しく学習できる新感覚の安全運転教育用ソフトを発売

ホンダは、簡易型四輪ドライビングシミュレーター向け安全運転教育用ソフト「ホンダセーフティナビ」の発売を開始した。



ソフトと推奨ハードがセットになったパッケージキット29万8000円(消費税込み)



「エコドラ」の解説画面イメージ。下記ホームページで動画をご覧いただけます。http://www.honda.co.jp/simulator/

らエコドライブのポイントを学べる「エコドラ」と、雪道や夜間・雨天時などさまざまな道路状況で想定される危険を踏まえた安全運転のポイントを学べる「SDコーチャー」の二種類で構成されている。

詳しくは安全運転普及本部教育機器課へ。TEL 048(452)0559

NEWS REVIEW

平成20年度 国際交通安全学会研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式

4月17日、経団連会館(東京都千代田区)で、「平成20年度国際交通安全学会研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式」が開催された。

オールユーザー指向の実用的な大規模交差点設計・制御の研究〜をはじめ、4テーマが発表された。

つくり実践(那覇市国際通り商店街振興組合連合会)「韓国全州市の歴史的町並み再生による中心市街地活性化」(全州市)

# 教育最前線

連載 12

●栃木県立真岡工業高等学校・原付安全運転講習

## 安全に通学できるよう 危険を予測した運転の意識づけを図る

### 原付安全運転講習の内容

#### 実技

### 1 乗車時の注意

実技では、まず、インストラクターがヘルメットの正しい着用や、安全な服装で走行することの重要性を説明。さらに、車両の取扱、乗り降りの際の注意点等を確認。

### 2 走行トレーニング



「ブレーキング」では、目標地点でしっかり止まれるように練習。インストラクターは、ブレーキをかけるタイミングや運転姿勢、視線などをチェックし、それぞれ個別にアドバイスをを行う。



「スラローム」では、運転姿勢や身体の使い方、視線などをアドバイスした。

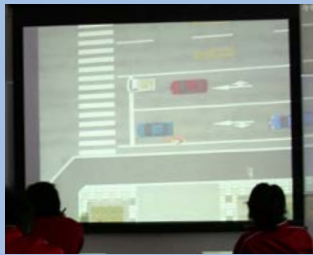
#### 座学

### 3 動画KYT(二輪車編)

まず、全員が動画KYTの映像を見ながら、各自で考えられる危険を探す。

その後、どんな危険を感じたのか意見交換を行う。インストラクターは、意見交換の中で、生徒たちが気づけなかった危険があれば、こういう場面も危険だと紹介する。

さらに、動画中の危険場面の振り返り。別の視点や角度から見た図や、事故設定映像などを交えて危険場面を解説する。インストラクターは、事故を防ぐためには、どのように運転したら良いのかアドバイスをを行った。



動画KYTの中で、特に注意が必要な二輪車に多い事故事例については、詳しく状況を説明する。例えば、巻き込みの危険がある映像では、二輪車がクルマの死角に入っていることを上から見た図で説明、車体の大きなクルマの横には入らないように伝えた。



免許保有者全員が、実技と座学の講習を受講する



た。実技を通して各自の技術力の向上をはかるとともに、安全を意識して操作することを伝えて事故防止につなげる。

大小様々なカーブのあるスラロームコースの走行では、「手元ではなく、前を見て走行すると判断が早くできます」「カーブで大きくふくらむと危険。スピードをしっかりと落とし、ラインを小さくしましょう」などとインストラクターが声をかけた。実技を行った。

#### ポイント①

実技を通して、基本の運転技術の向上と公道での安全運転を意識させる

の2グループに分かれて実技と座学の講習が実施された。

#### ポイント②

動画KYTで危険を予測する力を養う

生徒は、教室で動画KYT(危険予測トレーニング)を体験。「今から流す映像の中から、危険だなと思う場面を探してください」とインストラクター。生徒からは、「止まっているクルマのかけからクルマが出ようとしていた」「曲がる時のスピードが速すぎる」などと、お互いの意見を共有しながら、危険を予測する能力を高める。

#### ポイント③

二輪の交通事故事例を学び防衛運転の意識を育む

「二輪車が直進で交差点を進行しようとした時、1台のクルマが右折してきました。その右折車が行ったので、さらに直進しようとしたところ、続けよう1台右折してきました。二輪車

#### 安全運転の意識づけが重要

の場合、こういうケースで衝突する右直事故と呼ばれる事故が目立ちます。二輪車はクルマより車体も小さく、まだ遠くにいると錯覚されたり見落とされがちです」とインストラクターが説明する。さらに、「交差点を二輪車で通行する時は、対向するクルマが曲がってくるかもしれないと考え、自分がスピードを落として走行しようというように、事故を防ぐ意識を持って運転してください」と、防衛運転の重要性を伝えた。

同校の生徒指導部交通指導担当である村山啓太教諭は「今回の講習は、年度初めの安全運転の意識づけの機会と捉えています。本校は、工業高校なので二輪に興味を持つ生徒も多いです。とても便利な乗り物ですが、スピードに対する感覚が麻痺するなど利用する生徒の安全意識が低いと事故に直結してしまいます。専門の施設で、実技と座学の両面から事故事例や事故防止について学ぶことで生徒が安全を強く意識したと思います」と話す。

研修の申込みはHondaの交通安全センターへ。問い合わせ先は以下ホームページ参照。  
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/link/>

### SJホームページで「6・7月号読者アンケート」を実施中!

ホンダ SJ 検索  
アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で100名様にクオカードを進呈いたします。(締切: 8月19日)  
みなさまのご意見を今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。さらなる紙面向上につなげていきたいと思ひます。  
ご協力をよろしくお願ひいたします。

●羽後自動車学校(秋田県) 副管理者・大日向敬助さん  
当校では、従来からの教習業務に加えて、子どもや高齢者など地域の方へ交通安全を伝える機会が増えてきています。教習業務とは指導内容や教え方も異なるので、SJに紹介されている、各対象者への教育手法、ノウハウを参考にしています。高校や一般企業の取り組み事例が掲載されているので、関心を持っています。  
教習生には、免許取得に必要な運転技術を伝えるだけでなく、安全意識を高めてもらうことが重要で、公道での危険をいかに伝えるかが課題です。輸送ドライバー等運転のプロが感じている危険など、現場の生の声や情報が指導に役立つので、積極的に取り上げてほしいと思ひます。

●マジオドライブインクスクール藤枝(静岡県) 管理者・松田武さん  
SJ4・5月号のエコドライブの特集では、エコドライブ教育のさまざまな実践状況が掲載されており、たいへん参考になりました。静岡県指定自動車教習所協会でも県内の教習所の教習指導員をエコドライブインストラクターとして養成することを計画しています。当校では既に、安全運転とエコドライブをセットにした企業研修を開始しています。エコドライブを安全運転につなげていきたいという企業のニーズは高まっていくと思ひます。  
当校では初心運転者教育だけでなく、企業ドライバー向けの研修にも力を入れています。今、企業が交通事故削減のためにどのような課題に直面しているか、またどのような安全運転教育を望んでいるのか、企業の取り組みやニーズが紹介されている記事を今後も期待しています。

### 読者の声

ご愛読者のみなさまへ  
SJに対するご意見・ご感想をお寄せください! SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。みなさまのご意見・ご感想・ご要望を下記メールアドレスにてお待ちしております。  
[sj-mail@spirit.honda.co.jp](mailto:sj-mail@spirit.honda.co.jp)